

## 火災保険図によるイスタンブル商業地域の景観変遷

寺 阪 昭 信

### はじめに

イスラーム圏の歴史的都市において商業が重要な機能を持ちつづけていることは論を待たない。その商業機能を支える施設として、ハーン（キャラバンサライ）がバザール（市場）とともに中心的な役割を果たしてきた。多くの商業中心地にはハーンが存在を認めることができる。現在のトルコにおいては、その姿をはっきりと見出される都市は限られていて、イスタンブル、ブルサ、エディルネの保存状態がよく研究も多い。そのなかでイスタンブルはオスマン帝国の首都として、また港湾都市でもあり、世界の貿易の中心地としての大商業センターであったためにハーンが多かった。また同時代のヨーロッパの都市と比べても人口規模が大きく<sup>1)</sup>、旧市街（テオドシウスの城壁内）の商業地域は他都市（例えば同様に長い歴史をもつシリアのアレッポ）と比べて数の上でも、個々の建物をとってみても規模が大きい。その伝統が今日まで引き続き維持保存されてきた。本論はイスタンブルの商業地域がここ約百年の間にどのように変化してきたかを火災保険図という、今までほとんど研究に使われてこなかった大縮尺の地図を用いてハーンを軸に過去を復元し、現在の状況と比較するという歴史地理学的手法により旧市街商業地区の変化をたどることにある。

イスラーム地域の商業研究はなによりも市場（バザール、スーク、チャルスと地域によって使用される言葉は異なるが、ここではもっともポピュラーに使われているバザールを用いることにする）という伝統的な商業形態の継続性に研究が集中している。その歴史的核がどのような継続性と変貌をとって現在の都市空間構造のなかで機能しているか、とくにバザールとの関係を含めてハーンを考察の中心に捕らえる。都市内のハーンは商業取引と保管機能との両面でもっとも大きな存在であったし、都市景観としても卓越した地位を保持していたと考えられるので、それを含む商業地域の過去の復元と現在との比較を試みる。イスラーム建築の研究においても、モスクやマドラサなどの宗教建築に比べると、商業施設の研究は少なく、図面も多くはない。今回の分析の材料となる火災保険図は20世紀初頭と1950年以前

---

1) 林 (1992) によると16世紀中葉のイスタンブルの人口を45万人とした。1600年のヨーロッパの大都市としてはパリ30万、ナポリ27.5万程度である (La population des villes européennes de 800 à 1850, 1988による)。

のものとの2種類がイスタンブルについては存在していることが分かった。特に前者は旧市街の中核部、商業地区をすべてカバーしており、この大縮尺の地図を用いることによって当時の景観を復元することはオスマン時代末期の状況と共和国になってからの変化を追跡することができるので、その後、現在までの変化をたどりながら、観光化が進む中での町並み保存としての可能性を視野に入れつつ、今後の展望を試みる。歴史的都市として古い構造がよく残されているとはいえ、近年における変貌は激しいものがあることが分かる。

資料としてはイスタンブルについての Goad 社作成 1904-05 年の火災保険図と 2001 年に復刻版が刊行された Pervititch 図 (1940-50 年の火災保険図)、それとイスタンブル市役所が作成した 1995 年の GIS 用の地図が一次素材である。それと 2000, 01 年における現地調査にもとづいて、イスタンブル旧市街の商業の核心部を構成するグランドバザールからエジプトバザールにいたるエミニョニュ地区の間のハーンの現状、すなわち残存形態と商業地区における機能とを考察してみる。

## I トルコの火災保険図について

### 1 トルコの測量図と火災保険図の歴史

イスタンブルの絵図は 15 世紀以来多数あるが、この地域における測量図 (大縮尺の地形図や地籍図) はイギリスやフランスが 19 世紀末から 20 世紀前半にかけて関心を強め、利権を得てゆくなかで整っていく。最も早いのは 1776 年の Kauffer の約 25,000 分の 1 地図である。対象地域のハーンとして、必ずしも現在と一致する名前ではないが、Vifir, Ieni, Valide, Tahamis, Tackmate が Missur Charsi とともに記されているがグランドバザールには Besestins (Sandal et Genaher) と記入されていて建物の記入はない。それ以降いくつかの地図が知られて、次第に詳しくなっていく。

火災保険制度は 18 世紀の西ヨーロッパに始まるようである。フランスでは 1686 年のコルベールの勅令により設立が認可されたが、実際に会社が出来たのは 18 世紀の後半である。19 世紀の前半からヨーロッパ各国で火災保険会社が設立され、各地に支店が展開されていった。そのような潮流の中で、西ヨーロッパ諸国の経済的な支配が強まるオスマン帝国にもイスタンブルやイズミルにイギリスやフランスの保険会社が現れた。イギリスの 3 社、フランスの 1 社が最初に営業を始め、1880 年以降にはドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、ブルガリア、ルーマニア、ロシアから進出し、1890 年には 15 社に、19 世紀末には 44 社に達して火災保険業が発展した。20 世紀に入ってオスマン帝国末期の混乱の時代は保険会社にとってイスタンブルは魅力的な都市であったとみえ、1910 年から 22 年の間に会社数は 52 から 92 に増えた。その後アメリカ、ポーランド、ハンガリー、デンマーク、オーストラリア資本が入ってきた。また 2 つのトルコ資本が参加した [Güvenç 2001: 12-13]。このような状況の下で、イスタンブルの建物の火災危険水準を示す地図を作成することに

よって火災保険会社に情報を与えた。

その背景にはイスタンブールの相次ぐ大火災の歴史がある<sup>2)</sup>。1856年の Aksaray の火事は748戸を焼失させ、1865年の HocaPaşa の火事は Silkeci から Kumkapı までの広範囲の商業地区3,551戸を焼き尽くすことになり、さらに1870年の Beyoğlu の大火は新市街の金融中心を破壊し、3,000戸を失った。このように19世紀後半から大火災のたびに市街の近代化が進められて、耐火建築が促進されて建築規制に防火の概念が導入され、消防組織が制度化されていった。地震と火災後の再開発が大きな契機となって、街路網が直線化され、道路幅が拡張されてゆく。火災保険に対する関心を高められた [Güvenç 2001: 11]。

火災保険地図は1860年代にアメリカ合衆国の Sanborn 図(縮尺600分の1)が初期のものである [矢守 1975: 433]<sup>3)</sup>。この地図では土地利用と建物の種類がわかるが従来の都市研究にほとんど利用されてこなかった。数少ない研究事例には1931年のサンボーン図<sup>3)</sup>を用いてアトランタの都心の1990年代との土地利用の変化、すなわち大縮尺の地図に基づいて主要な建物の変化を分析したものに藤井がある [藤井 2000]。

## 2 イスタンブールの火災保険図

トルコにおける最初の火災保険図である Goad 図はイギリスの Chas E. Goad 建設技術会社<sup>4)</sup>がイスタンブールとイズミルについて作成したものである。第1巻は1904年9月 Eminönü-Beyazıt 地区19図版、第2巻は1905年12月 Galata-Pera 地区18図版、1905年6月に Izmir 中心部10図版、第3巻が1906年4月 Kadıköy-Haydarpaşa-Moda 地区14図版という構成で、ロンドンで出版された。地図に記載されている文字はフランス語である。凡例説明は英語と併記され、オスマン語は用いられていないのは外国の会社が主要な利用者であることを意味しよう。この地図はB2判形に縮尺600分の1で表現されている。日本の地籍図と同じスケールであることに注目すると、詳細な都市の分析に使える。

筆者が使用した地図は、大英博物館の地図室所収のもので、多色刷を白黒コピーしたものである<sup>5)</sup>。

2) 火災の頻度は1728-1854年の126年間に209回、平均年1.7回、一年の火災で106戸。1854-1908年の54年間に129回、平均年4.2回、1年当たり452戸焼失。1908-21年の13年間に79回、年平均6.2回、年1,630戸焼失という割合に次第に増加していた [Pervititch 2001: 12]。

3) 1866年創業のこの会社は現在ではGIS、や航空写真地図を主な仕事としているが、アメリカの主要都市の火災保険図を作っている。藤井によれば18世紀末作成が最も古いものと言われている。1930年代のものが利用可能である [藤井 2000]。

4) Goad は London に生まれ、1869年カナダに行って火災保険図を作り、1886年にイギリスに戻って126都市の火災保険図を発行した [Elliot 1987: 85]。

5) 地図には Plan D'Assurance de Constantinople vol: 1 Stamboul Septembre 1904, 発行所 Chas: E. Goad. Ingenieur Civil 53 New Broad St. Londres, E.C. et à Montreal et Tronto Canada と記載されている。

イスタンブルのエミニョニュ・ベヤジット地区の19図版について言えば、当時の主要なハーン、倉庫所在地、商業地区をカバーしている。その範囲は図1に概略示してあるが、金角湾沿いに東はシルケジ駅・トプカプ宮殿の城壁、西は海岸沿いにアタチュルク橋を越えたウンカパヌ地区まで、南は現在トラムが通るディバン大通りのベヤズット・モスクまでである。建物の材質（石材、レンガ、木造）および形態の一部（天窓トランターンの有無）は色刷りであるが、コピーのために区別ができなくなった。記載されている内容はそのほかに、ヴォールトの形態、屋根の材質、壁の種類、窓、扉・シャッター、建物の階数、用途（住宅、事務所など）、一部の地番および消火関連施設についてである。

1940年代以降についてはJacques Pervititchが作成した火災保険図をイスタンブルの保険会社AXA OYAK社が2001年に出版した復刻版がある。このPervititch地図は保険会社が長期的な危険を減らすために不動産資産の危険レベルを確定し、計算するという目的で資金を出して作らせたものである。しかしながらイスタンブルは共和国になってからアンカラへの首都機能の移動、外国人・少数民族の流出による人口減少、バルカン諸国の新たな独立により重要性が漸減していくなかで、人口の減少とともに港湾も衰退し始め、不動産市場の停滞という状況になる。さらに世界経済の危機、第2次大戦と続いた後の1950年以降には新たな都市化段階に入ったためにこの図は効果的に使われずに見捨てられ、忘れ去られてしまっていた [Güvenç 2001: 12]。

これはほとんど全市域にわたる地籍単位の詳細な地図として作成されたもので、1922年から45年の間に230枚作成された。Goad火災保険図の1904-06年版と1914年再版された地図のより正確な改訂版という性格を持つ [Güvenç 2001: 14]。記載された内容は凡例に従うと、建物のタイプ、土台・屋根・構造、壁と窓、階数と高さ、街路と地番、略字と記号による用途の6種類に分けられる。全体に詳しくなり、5色で表現されて、色彩が豊かになって表現が詳しくなり情報が増えている。建物に地番が入ったことが大きな特徴である。建物は木造（黄色）と石造・レンガ造（ピンク）とが区別されている。凡例はフランス語と英語、後期の製作図にはトルコ語が加えられて内容の記述がなされている。さらに街路、モスク、ハーン、主要な建物についての索引が地区ごとについている。

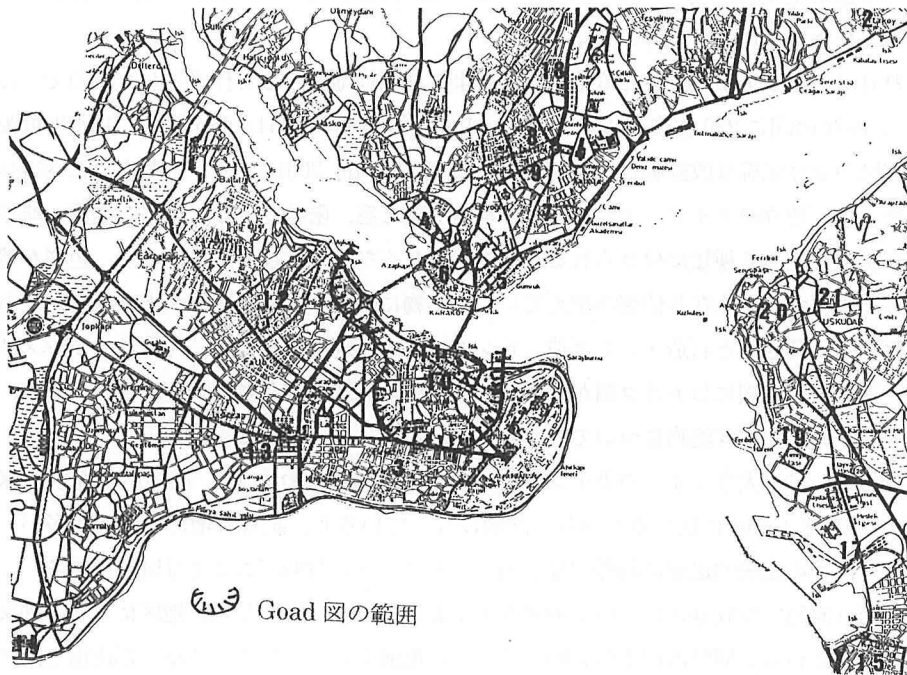
建物については大きく4つのカテゴリーに、さらに細分されて10、屋根が4種類、壁と窓が16種類とGoadに比べるとかなり詳細になっているし、記号も増えて情報が多い。例えば、トルコの伝統的建築に特徴的な2階のバルコニーの有無がここでは区別できる。

復刻版（原色）で収録されている地区を表1および図1に整理した。地区によって地図の縮尺を変えている。城壁内旧市街の約3分の2の地域をカバーしているが、新市街と、アジア側とは現在の市域から見るとかなり狭く、1950年当時までの市街化区域が想定できる。索引図で見る限りグランドバザール付近の地図は作られてないか、失われたことになる。またトプカプ宮殿を含む東端地区は復刻版の末尾に掲載された1948年から1951年にかけてのS. Nirven図に収められているが、精度と出来ばえはかなり見劣りする。Goad図が都心

表1 Pervititch 地図復刻版の概要

番号	地 区	製 作 年	主 縮 尺	他の縮尺	索引掲載数	収 録 数
1	Beşiktaş	1922	500		14	14
2	Ortaköy	1927	1,000		4	4
3	Marmara	1922-23	500		17	17
4	Beyoğlu (Vol. II) Nord	1925-26	1,000	375	13	13
5	Beyoğlu (East)	1932	500		8	2
6	Beyoğlu (West)	1932	500		14	2
7	Nord (Vol. III)	1926-27	1,000	500	10	7
8	Beyoğlu-Taksim	1944-45	375	500	11	8
9	Beyoğlu-Taksim Nahiyesi	1943-44	500	375	14	5
10	Eminönü	1940	500		15	13
11	Eminönü (East)	1942	500	250	14	7
12	Stamboul	1929	1,000	500	19	19
13	Mintaka	1934-36	500	1,000	23	18
14	Kazlı-Çeşme	1939	1,000		—	2
15	Kadıköy 1	1938	500		15	15
16	Kadıköy 1	1930	不明		33	0
17	Haydarapaşa 2	1930	500		14	2
18	Şişli (Vol. I)	1923-25	1,000		12	11
19	Üsküdar 3	1930	1,000		9	7
20	Üsküdar 4	1930-34	1,000	500	16	12
21	Üsküdar	1930	1,000		19	8

AXA 版より作成



図中の番号は表1 Pervititch 図に対応

図1 イスタンプルの火災保険図の範囲

商業地区に限られているのに比べて、Pervititch 図は住宅地区までカバーしているので、この間に火災保険に対する需要の変化を見ることが出来る。なおこの復刻版には原寸の約2分の1に縮小されて収められている。ちなみに本の版形は38.5×30.5 cmである。

結局このイスタンブルの火災保険図は最も火災頻度が高い時期に市街地の潜在的な危険を評価するために作成が開始された Goad 図の時期から、多数の火災保険会社が進出して多くの需要が見込まれて Pervititch に作成を依頼してより精緻な地図を完成させたが、その時にはすでに不燃化も進み、都市の大火の危険は低下して、火災保険の査定には技術的、社会的な必要が薄れて、ほとんど使用されずに終えたことになる。半世紀以上たった現時点でこの地図を見ると当時の都市の状況を復元する第一級の歴史資料となっている。

比較のために用いた現在のイスタンブルの地図(2図)は同市の都市計画用 GIS 地図を使用した。この図のオリジナルは縮尺500分の1である。それを東京大学都市工学科浅見研究室で2,000分の1に縮小したものをコピーして利用した。

なお2つの火災保険図は1枚ごとに描かれていて方位、縮尺が微妙に異なり、数枚を単純に手作業でつなぎ合わせると歪みが生じてくる。同一範囲を同縮尺で比較しようとしたが、完全には出来なかったことを断っておく。また本誌の版形の制約から、図2は図3～7(1:2,500)に比べて縮小率が大きい(1:5,000)。

## II イスタンブルのハーンの規模と立地

### 1 ハーンの機能と定義

トルコの歴史的都市の核は城砦、モスク、バザール、ハーンなどである。近代以前の都市はそれらを中心に同心円的な成長をとげてきたといえよう。イスタンブルを除くと、その核の範囲は現在の都市域からみるときわめてわずかな面積を占めているに過ぎない。なかでも都市のハーンは交通路の要所に設けられた宿泊機能としてのキャラバンサライと異なって、もともと隊商商人の宿泊機能と地場商人の取引・事務所機能、倉庫機能および製造の場(手工業)をあわせもっている。

形態的には建物で取り囲まれた中庭をもち、そこが家畜の餌場・休息場となる。2・3階建(一部は半地下をもつ)が多い。隊商交易が衰えてから建てられた新しいものは中庭がなかったり狭い回廊状になっていると考えられる。また近代的なコンクリート作りの商業ビルもハーンという名前がついているのを多く見かける。地形と街路形態に合わせてさまざまな平面形態をとるが、正方形ないし長方形が基本形態である。ハーンとバザールとは接近して存在することが多く、その空間関係にも注目しなければならない。

現存するハーンの建物は時代を経ているとはいえかなりの程度はそのまま使用されている。宿泊機能は失われているが、卸売り機能は相当程度に残っているし、倉庫としての保管機能は相当程度に維持されている。新たに加工機能が入り込んでいる例も見られる。現在どのよ

うに変化しているかも重要な研究課題である。業種的にはイスタンブルでは繊維関係が圧倒的の多く、日用雑貨品がそれに次ぎ、食品関係は比較的少ない。工業化された大量生産品が主体となる現在の流通を見ると、この古いハーンシステムに合わないものが増えてきて、それらはハーン・バザールを通さずに流通している。耐久消費財である自動車、家電製品や流行とむすびつく男女の洋服類やブティックなどの新しい商品群がそれである。旧市街とは別に造られた新興の商店街などで扱われることになり、卸売機能と小売機能が分化する。またそこにはより新しい商業形態（セルフサービス店など）も別に論じられなければならない。

## 2 都市の規模とハーンの立地

内陸都市のハーンはブルサやエディルネに見られるようにバザールに近い場所に立地するのに対して、イスタンブルやイズミルのような港湾都市におけるハーンは港地区にも集中している。Goad 図に含まれるエミニョニュ地区のハーンの数は大中小合わせて 210 以上に及ぶが、本論で対象として取り上げた 4 地区のハーン（表 2, 3 に含まれる）は合計すると 123 に達し、その 6 割近くを占めるので、イスタンブルのハーンの状態を十分に示している<sup>6)</sup>。もちろんこの地図に収録された範囲以外にも旧市街、新市街地区ともにハーンはあるが、分散的で数は多くない。

都市内部のハーンの立地を見ると、金角湾の港湾地区とグランドバザールを結ぶ地区が商業地区の核となる。エジプトバザールからルステムパッシャ・モスクを結ぶ線上、グランドバザールを取り巻くハーン、その 2 地区の中間にある 3 つの巨大ハーンを軸とした地区、ここはグランドバザールと連続するが、これら 3 地区を南北に結ぶ地区が伝統的な商業地区の核心部を構成する。ちょうど東にはヌルオスマニエ・モスク、西ではベヤズット・モスクおよびスレイマニエ・モスクに挟まれている。この地区を地形的にみれば南端は東西に伸びる幹線道路、Divan, Yeniçeriler 通りが尾根筋を通っている。そしてトプカプ宮殿がある第 1 の丘から続く、最も東よりの大きな Vezir ハーン（本研究の対象外）のある第 2 の丘陵と、旧宮殿、現イスタンブル大学の第 3 丘陵に挟まれた幅の広い北向きの斜面の谷間である。

## 3 ハーンの規模

シャラビ [Scharabi 1985: 229] が整理したハーンのリストにはシリアのアレッポ (14) とトルコ (アンカラ (3), ブルサ (5), イスタンブル (11), ディヤルバクル, エルズルム, マルディン各 1) の敷地面積と中庭の広さおよびその面積比が示されている。そこでの最大の面積をもつのはイスタンブルの Valide ハーン, 13,000 m<sup>2</sup> である。5,000 m<sup>2</sup> を超える規模のものはイスタンブル 2, アレッポ 2 (最大は al-Gumruk 6,200 m<sup>2</sup>) がある。ブルサ

---

6) Güran が取り上げたイスタンブルのハーンの数 は 102, うち平面図があるものは 63 である。

の最大は Piriñçハーン の 4,900 m<sup>2</sup>, という こと で イスタンブル の 規模 が 大 き い こと を う か が わ せ る。内陸の中継地点と、港湾であり近代以前に最大のグローバル都市であったイスタンブルとの差が反映されているように見える。

筆者は 1904 年 の 600 分 の 1 の 地 図 に 基 づ き 1 mm 方 眼 を 使 っ て 計 測 し て み た。その数値を表 2, 3 に示した。10 m<sup>2</sup>未満での誤差はあるかもしれないが、規模を論じるのには十分な値と思う。

対象地域をグランドバザールの内部と周囲, エミノニュの海岸部と中央部に 4 区分して比較する。ハーン の 平均 面 積 は バザール 内 部 が 739 m<sup>2</sup>, 周 圍 が 767 m<sup>2</sup> と 大 き な 差 異 は な く, エミノニュ北部が 566 m<sup>2</sup> で最も小さくて, 中央部が 1,082 m<sup>2</sup> と最大であるが, しかしここにある 3 つの大ハーンを除くと 639 m<sup>2</sup> であり, 他の地区と変わりはない。グランドバザールに関連するハーンがやや大きめなことが分かる。表 2, 3 に掲げた 123 のハーン の 規 模 分 布 を 見 れ ば, 1,000 m<sup>2</sup> 以上 が 25 ある の と 同 時 に 250 m<sup>2</sup> 以下 の 小 規 模 の も の が 25 ある。平均付近の 500 ~ 600 m<sup>2</sup> 台に 28 という こと で, さ ま ざ ま な 規 模 が 混 在 し て い る こと を 示 し て い る。これは取り扱われる商品の多様性とハーンを利用する商業者の取り扱い規模の多様性を反映しているのではないと思われる。要するにイスタンブルのハーンはイスラーム地域を代表するような大ハーンがある一方で, 一般のハーンの規模はそれほどの面積をもっていない。

中庭の形態と大きさをみると, 大きな中庭は隊商の大家畜を収容するための空間を提供する。中庭の存在が伝統的な機能に立脚した基本的形態とみなされる。とするとグランドバザール内とその周辺の中庭のほとんどが中庭型であることの意味が理解できる。ここでとりあげた 74 の中庭のあるハーンに限ってみると, その平均面積の規模は 1,024 m<sup>2</sup> と全平均よりも大きくなる。シャラビのデータによると, 敷地面積に対する中庭比率にはばらつきがあるが, 40% から 15% までの間が多く, 大型ハーンは比較的中庭が広い傾向が見られる [Scharabi 1985: 229]。中庭の形態は正方形ないし長方形であるが (表 2 の C で表示), かなり崩れた形が多いことは表 2 の ir. が 11 を数えることから読み取れる。グランドバザール関連のハーンに中庭型が多いのは作られた時代が比較的古く, 伝統的な形態を継承しているからと考えられる。またこの地区のものに中庭にモスク・メスジットが多く見られることは多くの利用者があったことを意味する。そして中央が狭くて細長い回廊型 (表 2 の V) は古くからの隊商交易とはかかわりの薄い比較的新たに出現したもの, ないしは新たな商品とのかかわりからのハーンであることを推測させる。

### Ⅲ イスタンブル旧市街の商業地域

イスタンブルのオスマン帝国末期から共和国初期の時代にかけては都市計画が導入されて社会的な変化が大きかったものの, エミノニュ商業地区に限ってみれば, 歴史的地区とし



て変化は比較的少なかったといえる。それでも、19世紀末に海岸部に新しい波止場と倉庫が建設されて港湾地区として整えられ、近代的なオフィスビルがたちはじめて金融・業務地区と流通地区に姿を変えた。近代的な商業系オフィスビルが海岸寄り、シルケジ駅付近に建設されていく。1940年代の記録によると、イスタンブルの最大の金融、商業企業はエミニョニュにあった。商業地区の象徴として大ハーンが続いている。より大きな変化は現在の地図に見られるように（図2）、80年代末になってから海岸部を中心に古い建物の撤去とオープンスペースの造成、道路の拡張と1992年のガラタ橋の付け替えとそれのともなうバスターミナルの整備が行われてからの変化が大きい<sup>7)</sup>。

### 1 グランドバザール

メフメット II世は征服後すぐ1455年に屋根付バザールを（旧）宮殿（現イスタンブル大学）の城壁のそばに建てた。征服後初期からのランドマークになるアヤソフィアとファティヒ・モスクとの中間に当たる場所である。この場合は西のベヤズット・モスク（1500-06年）、東のヌロスamaniエ・モスク（1748年）ともにバザール完成後に建設されたので、バザールとモスクの複合体といえるのかどうか疑問である。バザール自体は2つのベデステンを核に多くの店とそれを取り巻くハーン群から成り立っている。

建築的特長は長い歴史と改修の積み重ねの上で作られてきたので複雑である。基本的には1701年の火災以後建物を石とレンガにして、その時代のレイアウトを引き継いでいるといわれる<sup>8)</sup> [Cezar 1983: 105]。カパルチャルスという名前の通り、建物と通りとが一体となってバザール全体に屋根が架けられている。長方形の2つのベデステンを核として成立している。建物と18の門とによって閉ざされた空間を作り、夜間は閉鎖されている。ベデステンは柱の多い堅固な建物で通路に扉があり、この部分の屋根は特徴のあるヴォールトで覆われている。イチュ・ベデステン（1460年）は面積1,650 m<sup>2</sup>、金細工や骨董品を中心とした高価な商品を扱う伝統的な形態を保ち、2階にメスジットを有している部分がある。サンダ

7) 他方19世紀のエミニョニュの姿は共和国10周年の後にすっかり変わった。特にLutfi Kidarがイスタンブルの知事と市長をした1938-1949年である。イエニ・モスク前の建物を取り払って広場として伝統的な空間を変えた。金角湾に沿ってウォーターフロントが作られ、エジプトバザール周辺の建物を取り除き青空市場を作った。1955-56年にウнкаバヌーエミニョニュ間の道路が開かれ、有名な魚市場が消えた。Bedreddin Dalanがイスタンブル市長であった1984-89年に金角湾計画が作られ、イエミッシュ波止場と近くにあった建物を完全に移し、ズンダハーンとアヒジュレピ・モスク、一部の市壁、デールメンハーンを除いてオープンスペースにした。古いガラタ橋を付け替えて、元の場所より50m左に寄せた [Pervititch 2001: 133]。

8) その後も1750、1766、1896、1943年に火災や地震による増築と修復がくりかえされてきて1954年の火災による修理が最後のものである。1954年の状態では61の通り、3,300店舗、2ベデステン、1モスク、1メスジット、21のハーンのうち6は崩壊、となっている。バザールの店舗数は3,000から4,399までのばらつきがある。3,000以下ということはない [Cezar 1983: 105]。



A: グランドバザール B: エミノニュ海岸部 C: エミノニュ中央部 黒はモスク

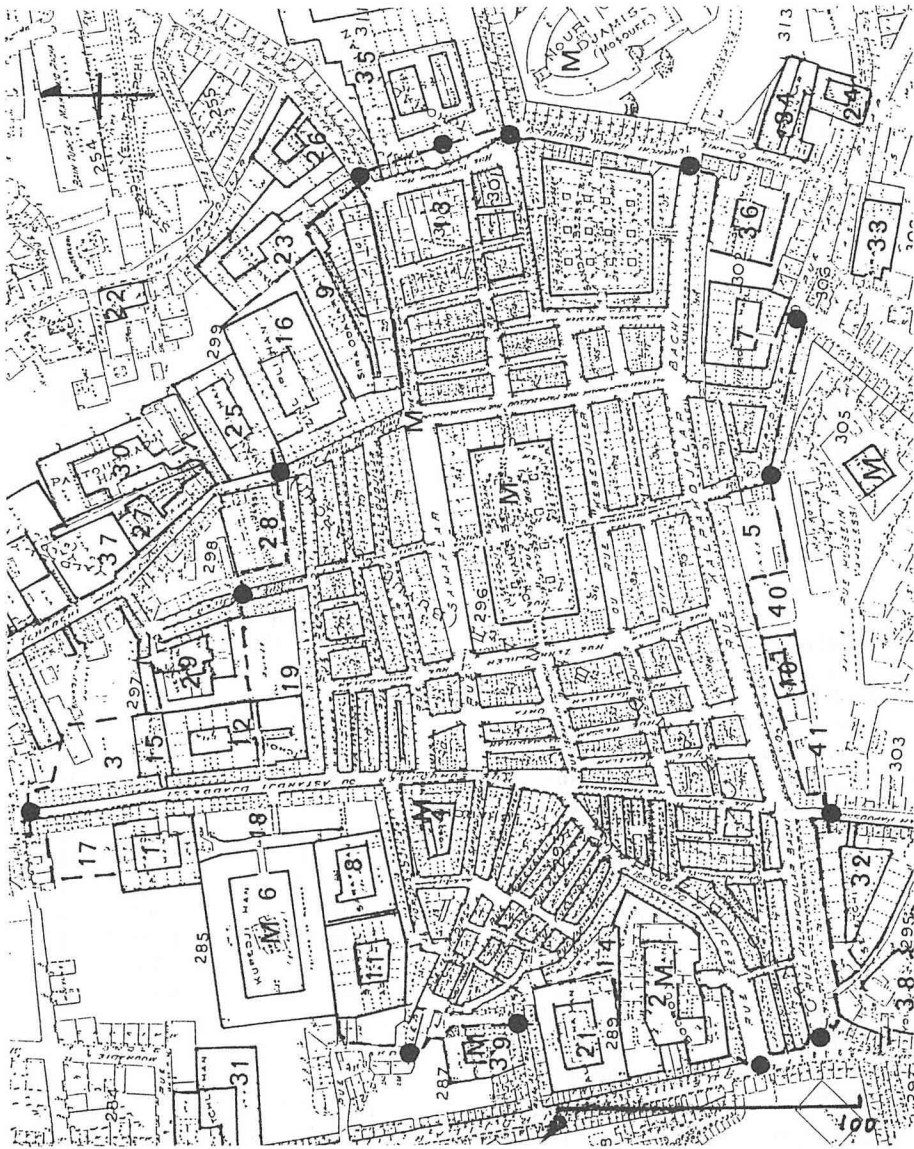
図2 対象地域エミノニュ 1995年

ル・ベデステン（1457年）は面積1,490 m<sup>2</sup>、柱の少ない広い空間で一つにまとまり、かつては絹を扱っていたがチャイハネが大きな部分を占めて、Tシャツなど繊維製品、土産物など店舗数は少なくあまり明るくはないが、開放的な空間を作りあげている。オークションやバーゲンの会場となるのももっともである。2つのベデステンの面積はグランドバザールの約1割弱を占めている。グランドバザールはベデステンより西よりに発展し、東西に走る金細工店の多い南側の Kalpakçılar 大通りと南北の Yağlıkçılar 通りを軸にしている。全体的には銀細工、銅製品を含めた伝統工芸品、衣装、カーペット、皮革製品、みやげ物、骨董品店が多く、日常生活に結びつく商品は少ない。周縁部のハーンは中心部の商店を補完する役割をもつ。特に、飲食、休憩に屋外の開放的な空間を提供してグランドバザール内の飲食施設の不足を補っている。

グランドバザール周辺の地図は先にも述べたように、Pervititchの地図には描かれておらず、現在のGIS地図も不十分な表現でしかなく、特に内部のハーンの表現は正確でない。そこで9業種を色分けしたL. A. Viada & V. L. Viada作成の観光地図Grand Bazaar（1989年）に頼ることになる。縮尺は書かれていないが約700分の1のようである。

グランドバザールの規模は約5万m<sup>2</sup>、内部の通り数は61、その総延長は3,554m（筆者計算）になる。内部に含まれるハーンは13（Bodrum, Hatib Emin, Küçük & Büyük Kebeci, Astarçı, Cükür, Perdahçılar, Zincirli, Halıcılar, Varakçi, Rabia, Baltacı, Sorguççu）というのが従来の見解である [Müller-Wiener 1977: 345-349]。そのうちKebeciはCebeciである。Baltacıは40（表2の番号）に、Halıcılarも23に当たるから図3ではバザールの外に分類される。現在3, 5, 8, 14, 19はハーンの形態を残していないし、9はバザール内側から繋がっていないので、表2内部リストのうちハーンの形態をとるものは結局13となる。Müller-Wienerと数は合うがハーンの数え方は異なる。1904年と比較すれば破壊されたハーンから2つが再建されていることになり、1989年の地図からも変化していることから、グランドバザールは境界の定義が資料により異なる不明確な部分があることと、絶えず変化があることを示している。このようにバザールは正確な店舗数を把握しがたいことともに形態もあいまいな部分が残されているが、外周部分のごく一部を除いて内外いずれかのハーンで囲まれていて、通路に設置された門とともに閉鎖空間を作り出している。

内部のハーンで注目されるのは2のBodrum（レストラン、チャイハネ、メスジット、水場樹木、広い空間。衣服・皮革小売、きれいに修復されていてなかなか広い開放的空間）、6のİç Cebeci（緑の多い広い空間に3つのチャイハネ、中央にメスジット。手工業、カーペット、骨董、みやげ物、衣類、2階は作業場、カーペットの修理）およびそれと繋がる18のCebeci（南北に細長く開放的できれい。4つのレストラン）、8のSarrafiには壊れていてつながらない。16のZincirli（きれいな落ち着きのある樹木つき中庭、修復済み、やや小高くなっていて、金細工の製造・販売、カーペット、皮革、骨董屋など高級、回廊付き2階）などである。また4, 7, 13は完全に周囲の商店と一体化していて、狭い入口を見逃せば



図中の番号は表2に対応 Mはモスク / メスジット

図3 グランドバザール 1904年 (Goad 図)

その存在に気づきにくい。

周辺部のハーンについてみると、24は取り壊されて空地となり、隣の34も半分は崩れている。29はハーンの建物はないが中庭の形態を残し、皮革材料を扱う。また33は近代ビル区画になっている。37の北隣はバザールの門からかなり離れるので番号をつけなかったが、再開発されて、銀製品店を集めたRococoセンター（地上3階地下2階）となっている。南側の40、41はやや荒廃している。整備されているのは32のSepetçi（2階 衣類の小売。

表 2 グランドバザール内部と周囲のハーン

番号	Goad 1904	Viada 1989	起源	中庭形態	面積㎡	区画数	1894
1	Astardi	Astracı	18	C	615	13	○
2	Bodrum	Bodrum	15	C ir.	1,140	18	
3	Elvadji (R)	Yolgeçen ruin	18	C	R		○
4	Mosque	Evliya		C ir.	625	33	
5	Ruin	Kebabçı		C	R		
6	Kupedji (R)	İç Cebeci	18	V M	2,185		
7	Roubie	Rabia	18	C	640	18	○
8	Saraf (R)	Sarrafa		C M	230		
9	Sira Odalar	Sok.		C	920	17	○
10	Sorgoudjou	Sorguçlu	18	C	335		
11	Stamboul Agha	Ağa Hanı Hatip Emin	18	Sok.	790	16	○
12	Tchoukour	Çukur	18	C ir.	940	13	○
13	Varakdji	Varakçı		C F	270		○
14	Yarim Tach	Yarım Taş		C	250	三角	○
15	Zafran	Safran		C	220	6	×
16	Zindjirli	Zincirli	18	C	1,190	16	○
17	n	Küçük Safran		C	R		
18	Ruin	Cebeci		C	R		
19	Ruin	Perdahçı	18	C ir.	R		×
21	Ali Pacha	Ali Paşa	18	C	925		○
22	Biraderler	Bekir Dere		Çıkmazı	160	(8)	
23	Halidjilar	Kalcılar	18	C ir.	1,160	16	
24	Haznboar	open space		C+R.	220		
25	Imam Ali	Imameli	18	C	800	12	
26	Kachikdji	Kaşıkçı	18	C	420	11	
27	Kadi Koumrou Yaldiz	(Usal)	18	C ir.	420		
28	Kizlar Aghassi	Kızlar Ağası	18	C	480	12	
29	Merdjan	Mercan	18	C ir.	540	14	○
30	Pastourmadji	Pastrımacı	18	C	1,075		
31	Sarnitchli	Sarnıçlı	18	C ir.	920	6	
32	Sepetchi	Sepetçi		C	1,100	18	
33	Sira	Ruin		C+R.	275	2	
34	Sofdjilar	Sofcu	18	C	460	4	
35	Tchohadji	Çuhacılar	18	C+B 2	2,180	41	
36	Yaghdji	Yağcı	18	C	595	14	
37	Yaldisly	Yaldızlı	1817	C	1,480	5	
38	Yolguetchen	Büyük Yol Geçen	18	C ir.	860	13	
39	Youndjiou	Cami		C ir.	500		○
40	Ruin	Balyacı		C			
41	Ruin	Yolgeçen		C ir.			

- 注 1 番号 1～19 はバザール内部, 21～41 は周囲  
 2 起源は世紀を示す。Güran による  
 3 C=中庭, R=廃墟, ir.=不規則な型, B=建物 M=モスク / メスジット  
 4 区画数は Goad 図による  
 5 1894 年の地震の状況壊れなかったもの。Cezar による

きれいに修復され広い中庭, 屋根にガラス) および修復工事中の 35 の Çuhacılar ((2000 年度から), 伝統的な 2 階建てハーンで規模が大きく, 中庭にも 2 棟の建物が大きく入りこんでいる。一部は開店しているが金細工店が多い, 銀細工, 骨董も。300 以上の店)。特徴のあるハーンは 23 の Kalcılar (21 ほどの銀細工の店ばかり集中, 入口は石造修復, 中は未修理。細長い通路から入る), 39 の Cami (狭いが 2 階は Imam hanı メスジット 1565 年,

がきれいなタイル装飾)である。

グラントバザール内部および外接したハーンはほとんどが中庭をもっているから屋根付バザールに変化をつけ、中庭の開放的な空間に存在価値がある。長時間バザール内に滞留する客にとっては飲食や休憩の場が少ないので、リフレッシュできる場を与えてくれる。

最後にヌルオスマニエ・モスクの東にある Vezir ハーンについて述べる。図に示した範囲以外で 8,500 m<sup>2</sup>の面積のある大ハーンであり、2階建て一部修復工事済み。中庭中央の建物は壊れかかったメスジットである。南東部の東西に伸びる建物は4階建ての Mahumdiye ホテルになっている。内部にはさまざまな手工業が多く見られた。

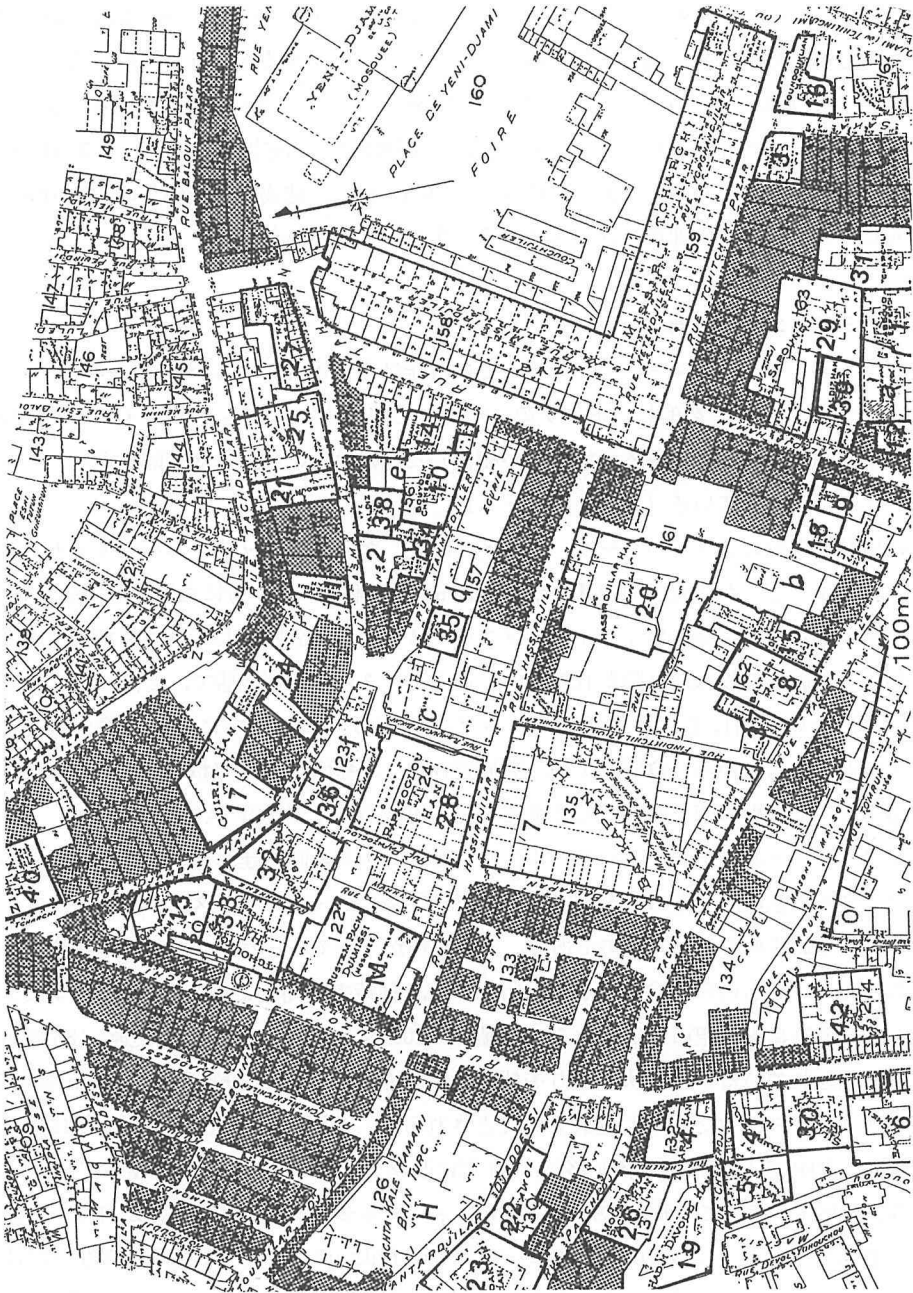
## 2 エミニョニュ海岸部

エミニョニュのランドマークの一つはすでに機能は停止されているが、タフタカレ・ハマムとオスマン時代の最も美しいモスクの一つといわれるリュステムパシャ・モスク(1560年代初めに建設された)である。海岸部が変化した割にはこの周囲に比較的大きなハーンが集積して、よく残っている(表3, 図4・5)。

この地域は東のエジプトバザール(Mısır Çarşısı)から西のリュステムパシャ・モスクにかけてをさす。ここから北の海岸部にかけては95年の地図には十分に表現されていないが、幹線道路が通り、海岸部の多くはオープンスペースとなり、公園として整備されつつあるので、かつての商業施設は取り除かれている。このモスクは1階が商店で、2階にモスクがあるタイプ。その南西にあるタフタカレ・ハマムは1940年にはすでに機能を停止して、ガレージなどになっている。倉庫、工場、機械置き場、事務所などに使われていた。現在は修復工事中で、作業場に使われたりしてまだ未使用が多かった(2001年9月)。

エジプトバザールはグラントバザールと並んで、トルコの商業建築を代表する建物であり、イスタンブルの伝統的商業の核を構成する重要な要素となっている。スルタンによってこの地域の古い薬局を作り直したものである。元は香料が中心であったが今では日用雑貨やみやげ物も含んでいるものの、食料品を扱う店が多く、独特の雰囲気と香りを漂わせている。L字型をして前庭にも青空市が出ている。面積は6,300 m<sup>2</sup>、地図によると90区画(86の店舗あるとも記されている)が中央の通りを挟んで並んでいる。通路の総延長は268 mである。1660年イェニ・モスクとともに建設されたとされるが、南廊は少なくとも1470年には存在していた。1940年に市に所有権が移り、43年に改修工事がなされて今日に至っていて、保存状態は良好である。この周辺の道路はインフォーマルセクターの商人であふれている。

この地区最大のハーンは16世紀に作られた7のBalkapanである。面積3,770 m<sup>2</sup>に達する大きなものである。2階建てで、中庭が広く(1,500 m<sup>2</sup>)中央にはメスジットが存在する。現状はかなり荒れて、物置、作業場などに使用されている区画は一部分であって、現在の商業的な機能は弱い。1904年の記述では商店、事務所、地下にバター倉庫とあり、南翼は店舗と手工業である。32のBüyük ÇükürはRüstempaşaハーンと呼ばれ、建物としての



図中の番号は表3に対応、アミの部分は商店

図4 エミニョニユ北部地域1904年 (Goad 図)



図5 エミノニュ北部地域 1940年 (Pervititch 図)



表3 エミニュエ地域(海岸部と中央部)のハーン

	Goad 1904	中庭形態	1940 Pervititch	階数	1995 GIS	面積㎡	起源
	海岸部						
1	Abboud Effendi	V	Abut Effendi	3	O. Abutefendi	360	18?
2	Aga	V	Trifonidis	5	バスターミナル	300	
3	Alti Parmakian	V	Altıparmak	4	1	230	
4	Arap	C	Yemiş	3	2	310	
5	Arap (Halil Effendi)	C	Bozkurt	2	B	440	
6	Baghtcheli	C	庭 café		open space	560	16
7	Balkapan	C	Balkapan	2	O	3,770	18
8	Baltazzi (Buyuk)	C	Baltacı	2	1	570	
9	Baltazzi (Kuchuk)	V	B	3		155	
10	Bouyouk Chekerdi	C	Sekerçi	2	バスターミナル	490	
11	Kuchuk Chekerdi		Laz Papaioğlu	5	バスターミナル	155	
12	Cohen	V	Kohen	4	1	130	
13	Djambaz	V	Cambaz	3	広場	500	18
14	Djamnili	V	Canlı	3	バスターミナル	280	
15	Djedid	V	Cedit	4	1	510	
16	Foundouklian 2	V	Fındıklyan	4	1	325	
17	Guirit	V	Kıraz	2	道路	820	18?
18	Halil	V	Halil	3	2	290	
19	Hadji Davoud	C ir	Şeh Davut	3	O Seyh Devut	810	
20	Hassir Djilar	C café	Yeni	2	O	1,460	
21	Kambour		Kambur	2	バスターミナル	220	
22	Karakol	C	Demir Taş	3	O	410	
23	Kondaktchi	C ir	Kondakci	2	O Kundakçı	800	
24	Laz		Iseri	2	バスターミナル	460	
25	Mahsoudji		Maksudiye	4	バスターミナル	780	15
26	Moustapha Pasha	C	R		2	490	
27	Nafie	V	Nafya	3	バスターミナル	460	17
28	Papazoglou	C café	Papazoğlu	2	O	1,280	19
29	Sapoundji	C/V	Sabuncu	2	O	1,130	
30	Silihtar (Zilifdar)		Zılıftar	2	O	495	
31	Tchapcuili	V	Çarsili	3	O Corşılı Güran	580	18
32	Tchoukour (buyuk)	C	Büyük Çükur	2	O	740	18
33	Tchoukour (kucuk)	C	Küçük Çükur	2	O	650	
34	Tseseli Atar		Attar	3	バスターミナル	120	
35	Tounous	V	Tanus	3	1	204	
36	Volt	V	Volto	2	広場	210	
37	Yachlar	V+F	O	4	1	160	18
38	Yaldiz	small	B 2	2	バスターミナル	240	
39	Yaldiz (kuchuk)	V	K. Seferoğlu Yaldız	3	1	260	
40	Zindan	V	Zindan	4	広場	475	
41	Tambouradji	C	Tanburacı	3	O	480	
42	Sapoundji (Soulou)	C	Sabuncu	2	O Emnlyet	635	
a	Depot de bois		Alaca	1			
b	café		Prevuayans	6			
c	B		Çavus Başı	3	O		
d	2階 R		Haraççı	2			
e	菓子工場	V	Ak Şehir	2			
f	B	C	Bostancı	2	道路		

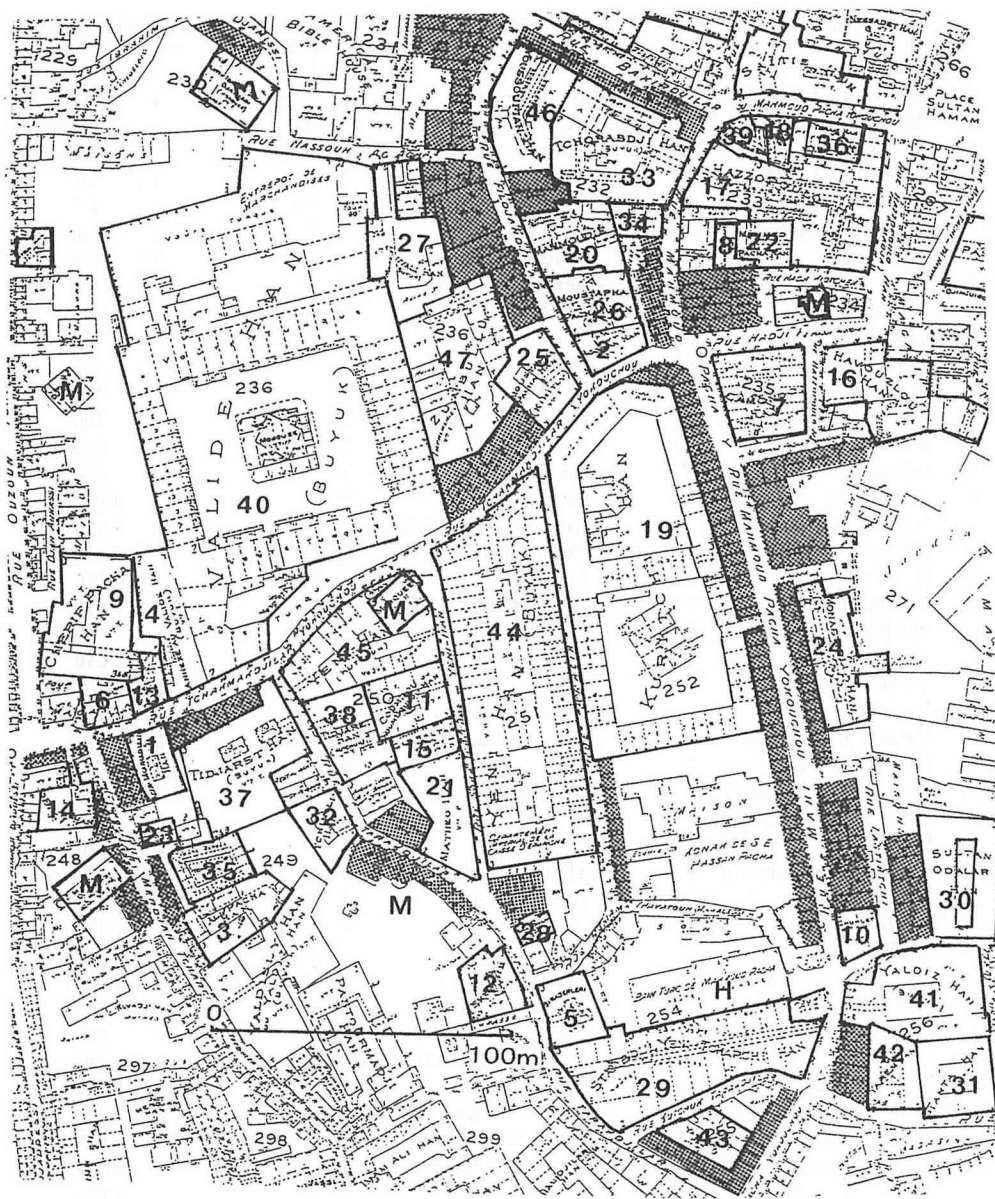
表3 エミニョニュ地域(海岸部と中央部)のハーン(続き)

	Goad 1904	中庭形態	1940 Pervititch	階数	1995 GIS	面積㎡	起源
	中央部						
1	Acop Mouradian	V	H. Muradiyan	4		1	310
2	Agopan	V	M. Agopyan	3	O		240
3	Ali Pacha	C si	Mercan Ali Paşa	2			660
4	Annex au Valide		Valide	2		1	650
5	Biraderleri	V	Narin	4	O		380
6	Boundjouhidjou		Buncukcu	2		1	230
7	Camondo	V	Kefeli	3		1	755
8	Chekerdji		Şekeri	3	O		130
9	Cherif Pasha	C ir.	Kızılay	3	B		1,080
10	Chuhlet		hotel	2	O		230
11	Coumrou	小V	Kumurulu	2		2	510
12	Ekberie	V	Ekberie	2			400
13	Evelie		Buncukcu に併合	2	O		190
14	Evlie	小C	Evliya	2		1	535
15	Gibraltar	V	Gibraltar	2		2	260
16	Havouzlu	V	Havuzlu	2	O		1,090
17	Hazzopoulo	LV	Kuyumcıyan + Aslan	2		1	1,740
18	Hudaverdi	V	Hudaverdi	4			170
19	Kurkttchi	C	Kürkçi	3	O		6,120
20	Mahmoudie	C	Mahmudiye	3	O		650
21	Matheo	P	Mateo	3		1	665
22	Mehmed Pasha	LV	Mehmet Paşa	3		1	290
23	Melikian		B	3		1	100
24	Monastili	P	Monastirli	3	3		840
25	Moustapha (Kiritly)	V	Mustafa Paşa	2		1	540
26	Moustapha Pasha (ku)	P	B	3		1	525
27	Nassouvali (buyuk)		倉庫 (Nasuhiye)		R?		770
	Nassouvali (Kuchuk)		B		B		175
28	Saatchilar	V	B	3		1	110
29	Stamboul Yeni Tcharchi	P	About Efendi	2	O		2,020
30	Sultan Odalar	C	Sultan Odalar	2	O		1,025
31	Tahta		Cuzın	3		1	630
32	Tchinili	C	Çinili	2	O		350
33	Tchorabdjı (buyuk)	C	Büyük Çorapçı	3	O		1,680
34	Tchorabdjı (kuchuk)	C	Küçük Çorapçı	2	O		190
35	Tchoukour	C	Çukur	2	O		400
36	Teraki	V	B (Lazzaro Franco)	5		1	270
37	Tidjaret (Buyuk)	V	Ticaret Büyük	3	O		1,310
38	Tidjaret (Kuchuk)	小V	Ticaret Küçük	2		2	540
39	Valide Sultan	VL	Valide Sultan	3		2	170
40	Valide (Buyuk)	C M	Büyük Valide	3	O		12,650
41	Yaldiz (Buyuk)	C	Büyük Yaldız	3	B		1,165
42	Yarem	C	Yarem	3		1	510
43	Yassemi	V	Tarakçılar + Yasemin	3		2	340
44	Yeni (buyuk)	C	Yeni	2	O		4,430
45	Yeni (kuchuk)	C	Yeni Küçük	3	O		1,325
46	Youssoufian	V	Yüssüfiyan	5	O	1	980
47	Zumbullu	C ir.	Zumbüllü	3	O		1,620

注 Goad 1904, Pervititch 1940, 1995 地図に基づいて作成

1 中庭形態は C=四角形, V=ヴォールトをもつ L=L字形 M=モスク

2 現在の状況は O=ハーン, B=商業建築, 1, 2 は GIS 図に示された区画数



図中の番号は表4に対応、アミの部分は商店

図6 エミノニユ中央部1904年 (Goad 図)

保存状態は良いがあまり利用されていない。堅牢な2階建てであり、地下がある。その他にかつての形態を良く残しているのは33の Küçük Çükür と28の Papazoğlu であり、外側が各種商店となっている。19の Seh Davut, 23の Kondakçı も石造の姿をとどめている。

この地区の小型ハーンは近代的なビルに姿を変えたものが多く、海岸大通 (Eminönü) と Çarşı 通りの拡張にとまない、建物の消失と変化は激しい。商業地区としては20世紀初

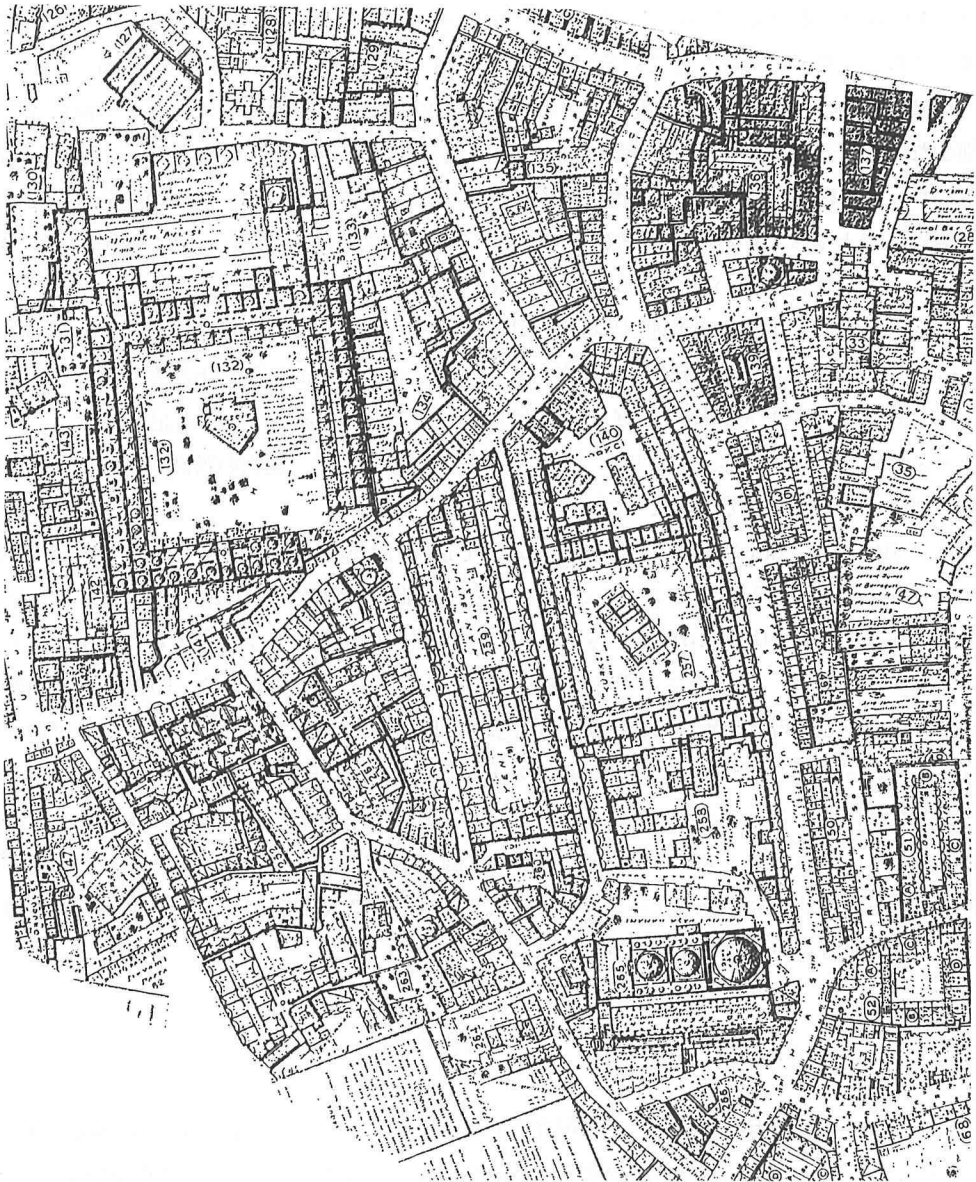


図7 エミノニュ中央部 1942年 (Pervititch 図)

頭のような中心性は失われているが日用品雑貨類を扱って依然として賑わいを保っている。

### 3 エミノニュ中央部

この地域の北は海岸部と少し間をおき、南はグランドバザールに接する大型ハーンの多い地区であり、それらは保存状態も良い(表3, 図6・7)。

40の Büyük Valide はイスタンブル最大のハーンであり、確証はないが、Scharabi の研

究に基づけば世界最大の可能性が考えられる<sup>9)</sup>。中庭中央にはモスク（メスジット）があるが、1905年の四角形から40年には五角形に変わっている。現在ほぼ店舗が小売も含めて埋まっており、にぎわいを呈しているが、広い中庭はもっぱら駐車場に使われている。

19のKürkçiは1467年建設のイスタンブル最古のハーンといわれている。2区画に大分割されていて、北半分の中庭には2つに工場が記され、1905年に比較するとその他の建物も加わって、ほぼ現在と同じく空地は半分ほどになっている。北翼のかなりの部分はSabrisafaハーンとなっている。北東角は1905年には使用されていなかった。南側は中庭中央の建物に大きな変化はないが、1905年に比べると水場がなくなり、いくつか付属物が加わっている。現在ここは衣類、繊維製品の小売店が並び、一般客が多く入って活気を呈している。このハーンの南に接する部分は1905年にはS. E. Hassan Paehaの建物と記されているが、1940年には建物が拡大され、中庭には樹木があり、子陰のあるカフェーと記され、さらに昔のメフメット・パシャ・ヒュリエット・ホテルとなっている。建物の階層が増えているのでこれがホテルになっているように見える。

44のBüyük Yeniはムスタファ三世によって造られた南北に細長い（幅37m長さ128m、中庭比が約20%）形態をとる。北廊の2・3階部分が斜めにせり出しているところに特徴がある。ここの中庭は中央で二分されている。150の区画がある。1904年には南北ともに建物があったが、1940年には現在見られるように中庭に戻されている。中庭を囲む回廊が描かれている。現在の用途は物置場、手工業、卸売りなどで、空き部屋が多くレンガ造りの建物はしっかりとしている（一部修復）にもかかわらず有効に使われてはいない。

この地区は以上3つの大ハーンを中心として、多くのハーンが集積し、その南部はグラウンドバザールにつながるイスタンブルの伝統的核心部を構成している。多くのハーンが現役で活動している。とくにKürkçiハーンのように完全に小売業に徹した方向は今後の一つの方向性を示唆するものとして高く評価できる。

#### IV ハーンの現状と変容

イスタンブルの旧市街ではハーンは現在でも大小2つのバザールとともに商業地域の中心的な存在である。しかし、かつての機能は薄れているし、衰退しつつある。商業地区の連続性はハーンが存在を抜きにしては考えられない。

現在の旧市街商業地域の中核部をなすエミニョニュ地区は5・6階建てのビル化が進み、建物密度が高まった。空地、建物の壊れた跡地、住宅地は完全に建物で埋め尽くされ、そのほとんどが商業用地である。商業地としては20世紀初頭よりもはるかに土地利用は高度化されている。歴史的核となる伝統的建造物のうち、モスクとメドレセはほとんど変化をしていないが、ハمامは消滅して、ハーンも元の形で残っているものは少なくなった。観光向けに再生復元されたものに、昔の姿をしのぶほかない。残余のものは廃墟に近いものと、部分

的にしか名残りととどめないものである。便宜上3つに分けたこの調査地区に即していえば、表3からも明らかなように海岸部から中央部、グランドバザールに近づくにつれて、ハーンの残存率が高くなる。このことはイスタンブル旧市街商業地区の性格を直接的に反映している。

現在のGIS図のハーンとバザールの表現は不十分であるが、時代とともにハーンのかつて有していた機能を失い、衰退し、荒廃しながら次第にその姿を失いつつあることが読み取れる。ハーンの最盛期が何時であったかは分からないが、20世紀初頭にはかなり廃墟と記されたハーンがあったことが分かった。それらのうちいくつかは表にも示した通りに、その後には復元されている。また、修復工事がなされて積極的に利用されているハーンもある。いくつかの大型ハーンはオスマン時代の歴史的建造物として、保存価値が高い。グランドバザールと結びつきが強いハーンは荒廃しているものもあるが、良く残されているものが多い。したがって、ハーンについてはそのまま機能を維持しているもの、機能を変化しながら建物が残されているもの、廃墟に近い状態のもの、完全になくなって他の用途に変わったものと多様である。

この地区の現状は土地利用から見ると高密度な商業活動が行われているが、20世紀初頭にはかなりの空地が見出されるとともに、住宅が多い。現在の商業中心からはちょっと想像出来ないほど、低密度の利用であった。40年代の地図でもまだ未利用地が見つかる。50年以降のこの地区がかなり変化したことを示すものである。その変化は海岸部で激しく、グランドバザールに近づくほど少なくなってくる。ハーンが過去の遺物として一方的に衰退傾向を取るのではなく、現在でもこの商業地区において重要な役割を果たし続けている。首都移転という一時的な衰退はあったにせよ、イスタンブルは20世紀後半には人口増加が著しく、1,000万人大都市圏の中心的な商業機能を支えている。オスマン帝国期よりもはるかに商圏人口は大きくなっている。

トルコを観光で訪れる人も増えているし、しかもそれらの人々のほとんどはイスタンブルからトルコに入り、バザール地区に入ってくる。さらに、ソ連・東欧の崩壊以後これらの国々から安くて豊富な商品を購入に来る人でこの地区はごった返している。そのうえ路上のインフォーマルセクターで働く人々の群れが、他の場所では味わえない雰囲気とエキゾチズムを養いツーリストに魅力を提供している。それが2つのバザールを軸とした伝統的な商業施設の存続に大きな力を与えていることは明らかである。ここの施設の所有形態までは調査していないが、修復・改装して時代の要求に適應することは十分に可能である。

この火災保険図に取り込まれた情報は沢山あるが、今回はその一部しか利用できていない。GISに取り込み分析することが、これからの課題である。

[謝辞] 文部科学省科学研究費創成的基礎研究「現代イスラーム世界の動態的研究」研究班 4「地理情報システムによるイスラーム地域研究」小域研究グループ（通称トルコ都市研究会、代表者浅見泰司）に参加し、資料の提供を受け、その研究会に出席して刺激されてこの小論を書いたのであり、浅見氏をはじめとする研究会のメンバーに感謝する。

## 参 考 文 献

- 小長谷一之（2000）イスタンブールの古地図と歴史空間——アイベルディ地図の歴史 GIS 分析 足利健亮先生追悼論文集編纂委員会編『地図と歴史空間』大明堂。
- 鈴木 董（1993）『図説イスタンブール歴史散歩』河出書房新社。
- 林佳代子（1992）イスタンブール『事典イスラーム都市性』亜紀書房。
- 藤井 正（2000）新旧都心空間の形成と変化——アトランタ大都市圏の多角化を事例に 足利健亮先生追悼論文集編纂委員会編『地図と歴史空間』大明堂。
- 矢守一彦（1975）『都市図の歴史——世界編』講談社。
- Cezar, M. (1983) *Typical Commercial Buildings of the Ottoman Classical Period and the Ottoman Construction System*. Türkiye İş Bankası Cultural Publications. Istanbul.
- Celik, Z. (1993) *The Remaking of Istanbul; Portrait of an Ottoman City in the Nineteenth Century*. University of California Press. Berkeley.
- Elliot, J. (1987) *The City in Maps: urban mapping to 1900*. The British library. London.
- Güran, C. (1976) *Türk Hanlarının Gelişimi ve İstanbul Hanları Mimarisi*. Vakıflar Genel Müdürlüğü Yayınlar. Istanbul.
- Güvenç, M. (2001) The Pervititch maps: An unfinished research project for Istanbul. Axa Oyak, Istanbul. In: *Jacques Pervitich Sigorta Haritalarında İstanbul*. Istanbul.
- Axa Oyak (2001) *Jacques Pervitich Sigorta Haritalarında İstanbul*. Istanbul.
- Kuban, D. (1996) *Istanbul an Urban History: Byzantion, Constantinopolis, Istanbul*. The Economic and Social History Foundation of Turkey. Istanbul.
- Müller-Weiner, W. (1977) *Bildlexikon zur Topographie Istanbul*. Ernst Wasmuth. Tübingen.
- Özdeş, G. (1998) *The Turkish Çarşı*. A Tepe Publication. Ankara (原著 1954).
- Scharabi, M. (1985) *Der Bazar*. Wasmuth. Tübingen.
- Tekeli, I. (1992) Nineteenth century transformation of Istanbul metropolitan area. In: Dumont, P & F. Geogon (eds). *Villes ottomans à la fin de l'Empire*. L'Harmattan. Paris. 33-45.

(流通経済大学経済学部)